基礎解析学2-一変数と多変数の積分- 演習問題

岩井雅崇 2023/01/10

1 期末試験の日時・内容

期末試験の情報は次のとおりです.

- 1. 期末試験の日時は 2023 年 2 月 7 日 (火)2 限 (10:30-12:00) です. 試験開始 5 分前には着席しておいてください.
- 2. 期末試験の場所は豊中総合学館302です.
- 3. 教科書・ノート等の持ち込みはできません. スマートフォン・携帯も使用できません.

期末試験の問題は以下のものを考えております.

- 重積分の計算問題 (2 次元). 「第 5 回授業の重積分 2 -累次積分」「第 6 回授業の重積分 3 -重積分の変数変換公式-」の内容.
- 重積分の計算問題 (3次元). 「第7回授業の重積分4-3次元の積分と体積-」の内容.
- 広義積分. 「第8回授業の広義積分1-広義積分の定義とガウス積分-」の内容.

これらの内容が期末試験のメインとなります. これらの内容で 100 点程度を考えております.

またおまけの問題は「第4回授業の重積分1-重積分の定義-」と「第2回授業の一変数の積分1-微分積分学の基本定理-」を考えております。これは解けることを想定していない問題です。10 点くらいを考えております。

以下 110 点 (ぐらい) で出来に応じて何か修正をします. 基本的な計算問題を解けていれば不可になることはありません . 逆を返すと「この計算問題は間違えるはずがない」という問題に関してありえない解答をしていれば、不可になります. 1

この演習の問題及び授業の資料・板書内容は授業ページ (https://masataka123.github.io/2022_winter_int/) にもあります。 右下の QR コードからを読み込んでも構いません。



 $^{^{1}}$ 正解なら 0 点で間違えれば- 20 点という問題を出す人もいますが、今回はやめておきました.

2 演習問題

第1問. 重積分の計算問題(2次元)

- (1). $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2\,|\,0\leq y,\,0\leq x-y,\,x+y\leq 2\}$ とする. 重積分 $\iint_D (x^2-y^2)dxdy$ の値を求めよ.
 - (2). $D = \{(x,y) \in \mathbb{R}^2 \mid \sqrt{x^2 + y^2} \le 1\}$ とする. 重積分 $\iint_D e^{-x^2 y^2} dx dy$ の値を求めよ.
 - (3). $D = \{(x,y) \in \mathbb{R}^2 \mid x^2 + y^2 \leq x\}$ とする. 重積分 $\iint_D \sqrt{x} dx dy$ の値を求めよ.
- (4). $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2\,|\,0\le x,\,0\le y,\,\sqrt{x}+\sqrt{y}\le 1\}$ とする. 重積分 $\iint_D x^2dxdy$ の値を求めよ.

第2問. 重積分の計算問題(3次元)

- (1). a を正の実数とする. 円柱 $V_1=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2\leqq ax\}$ と球 $V_2=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2+z^2\leqq a^2\}$ の共通部分 $V_1\cap V_2$ の体積を求めよ.
- (2). a を正の実数とする. 円柱 $V_1=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2\leqq a^2\}$ と球 $V_2=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2+z^2\leqq 4a^2\}$ の共通部分 $V_1\cap V_2$ の体積を求めよ.
- (3). $V=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2+z^2\leqq 1\}$ とする. 重積分 $\iiint_V x dx dy dz$ の値を求めよ.

第3問,広義積分

p を実数とし $f(x) = x^p \log x$ とする. 次の問いに答えよ.

- (1). p < -1 ならば広義積分 $\int_{1}^{\infty} f(x)dx$ は収束することを示せ.
- (2). $p \ge -1$ ならば広義積分 $\int_1^\infty f(x)dx$ は発散することを示せ.

3 演習問題の解答

第1問. 重積分の計算問題(2次元)

(1). $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2\,|\,0\le y,\,0\le x-y,\,x+y\le 2\}$ とする. 重積分 $\iint_D (x^2-y^2)dxdy$ の値を求めよ.

(解.) $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2\,|\,0\leq y\leq 1,y\leq x\leq 2-y\}$ より累次積分を使用して

$$\iint_D (x^2 - y^2) dx dy = \int_0^1 \int_y^{2-y} (x^2 - y^2) dx dy = \int_0^1 \left[\frac{x^3}{3} - xy^2 \right]_y^{2-y} dy = \int_0^1 \left(\frac{4y^3}{3} - 4y + \frac{8}{3} \right) dy = 1.$$

(2). $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2|\sqrt{x^2+y^2}\leqq 1\}$ とする. 重積分 $\iint_D e^{-x^2-y^2}dxdy$ の値を求めよ. (解.) $E=[0,1]\times[0,2\pi]$ とし、

$$\Phi: \quad E \quad \to \quad \mathbb{R}^2$$
$$(r,\theta) \quad \longmapsto \quad (r\cos\theta, r\sin\theta)$$

とすると、多重積分の変数変換の公式から

$$\iint_D e^{-x^2 - y^2} dx dy = \iint_E e^{-(r\cos\theta)^2 - (r\sin\theta)^2} |r| dr d\theta = \iint_E e^{-r^2} r dr d\theta
= \int_0^{2\pi} \left(\int_0^1 e^{-r^2} r dr \right) d\theta = \int_0^{2\pi} \left[\frac{-e^{-r^2}}{2} \right]_0^1 d\theta = \int_0^{2\pi} \frac{1 - e^{-1}}{2} d\theta = \pi \left(1 - \frac{1}{e} \right).$$

(3). $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2|x^2+y^2\leqq x\}$ とする. 重積分 $\iint_D\sqrt{x}dxdy$ の値を求めよ.

(解.) $E = \{(r, \theta) \in \mathbb{R}^2 | 0 \le r \le \cos \theta, -\frac{\pi}{2} \le \theta \le \frac{\pi}{2} \}$ とし、

$$\Phi: \quad E \quad \to \quad \mathbb{R}^2$$
$$(r,\theta) \quad \longmapsto \quad (r\cos\theta, r\sin\theta)$$

とすると、多重積分の変数変換の公式から

$$\iint_{D} \sqrt{x} dx dy = \iint_{E} (r \cos \theta)^{\frac{1}{2}} r dr d\theta = \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \int_{0}^{\cos \theta} r^{\frac{3}{2}} (\cos \theta)^{\frac{1}{2}} dr d\theta$$
$$= \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (\cos \theta)^{\frac{1}{2}} \left[\frac{2}{5} r^{\frac{5}{2}} \right]_{0}^{\cos \theta} d\theta = \frac{2}{5} \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} (\cos \theta)^{3} d\theta = \frac{8}{15}.$$

(4). $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2:0\leqq x,\,0\leqq y,\,\sqrt{x}+\sqrt{y}\leqq 1\}$ とする. 重積分 $\iint_D x^2dxdy$ の値を求めよ.

(解.)
$$E = \{(u, v) \in \mathbb{R}^2 : 0 \le u \le 1, 0 \le v \le 1 - u\}$$
 とし,

$$\Phi: \quad E \quad \to \quad \mathbb{R}^2$$
$$(u,v) \quad \longmapsto \quad (u^2,v^2)$$

とすると、多重積分の変数変換の公式から

$$\iint_D x^2 dx dy = \iint_E u^4 (4uv) du dv = \int_0^1 \int_0^{1-u} 4u^5 v \, dv du$$
$$= \int_0^1 4u^5 \left[\frac{v^2}{2} \right]_0^{1-u} du = 2 \int_0^1 \left(u^5 - 2u^6 + u^7 \right) du = \frac{1}{84}.$$

第2問. 重積分の計算問題(3次元)

(1). a を正の実数とする. 円柱 $V_1=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2\leqq ax\}$ と球 $V_2=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2+z^2\leqq a^2\}$ の共通部分 $V_1\cap V_2$ の体積を求めよ.

(解.)
$$D = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 | x^2 + y^2 \le ax \}$$
 とおくと

$$V_1 \cap V_2 = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid (x, y) \in D, -\sqrt{a^2 - x^2 - y^2} \le z \le \sqrt{a^2 - x^2 - y^2} \}$$

である. よって $V_1 \cap V_2$ の体積は

$$\iiint_V dx dy dz = \iint_D \left(\int_{-\sqrt{a^2 - x^2 - y^2}}^{\sqrt{a^2 - x^2 - y^2}} dz \right) dx dy = \iint_D 2\sqrt{a^2 - x^2 - y^2} dx dy$$

$$= \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \int_0^{a\cos\theta} 2\sqrt{a^2 - r^2} \, r dr d\theta \quad (第 1 問 (3)) \subset \mathbb{R}$$

$$= \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} \left[\frac{-2}{3} (a^2 - r^2)^{\frac{3}{2}} \right]_0^{a\cos\theta} d\theta$$

$$= \frac{2a^3}{3} \int_{-\frac{\pi}{2}}^{\frac{\pi}{2}} 1 - |\sin\theta|^3 d\theta = \frac{4a^3}{3} \int_0^{\frac{\pi}{2}} 1 - (\sin\theta)^3 d\theta = \frac{4a^3}{3} \left(\frac{\pi}{2} - \frac{2}{3} \right).$$

(2). a を正の実数とする. 円柱 $V_1=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2\leqq a^2\}$ と球 $V_2=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3\,|\,x^2+y^2+z^2\leqq 4a^2\}$ の共通部分 $V_1\cap V_2$ の体積を求めよ.

(解.)
$$D = \{(x, y) \in \mathbb{R}^2 | x^2 + y^2 \le a^2 \}$$
 とおくと

$$V_1 \cap V_2 = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid (x, y) \in D, -\sqrt{4a^2 - x^2 - y^2} \le z \le \sqrt{4a^2 - x^2 - y^2} \}$$

である. よって $V_1 \cap V_2$ の体積は

$$\iiint_V dx dy dz = \iint_D \left(\int_{-\sqrt{4a^2-x^2-y^2}}^{\sqrt{4a^2-x^2-y^2}} dz \right) dx dy = \iint_D 2\sqrt{4a^2-x^2-y^2} dx dy$$

$$= \int_0^{2\pi} \int_0^a 2\sqrt{4a^2-r^2} \, r dr d\theta \quad (第 1 問 (2) \ \text{に同じ.})$$

$$= \int_0^{2\pi} \left[\frac{-2}{3} (4a^2-r^2)^{\frac{3}{2}} \right]_0^a d\theta = \int_0^{2\pi} \frac{2}{3} (8-3\sqrt{3}) a^3 d\theta = \frac{4\pi a^3}{3} (8-3\sqrt{3}).$$

(3). $V=\{(x,y,z)\in\mathbb{R}^3|x^2+y^2+z^2\leqq 1\}$ とする. 重積分 $\iiint_V x dx dy dz$ の値を求めよ. (解.) $D=\{(x,y)\in\mathbb{R}^2|x^2+y^2\le 1\}$ とおくと

$$V = \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid (x, y) \in D, -\sqrt{1 - x^2 - y^2} \le z \le \sqrt{1 - x^2 - y^2}\}$$

である. よって

$$\begin{split} \iiint_{V} x dx dy dz &= \iint_{D} \left(\int_{-\sqrt{1-x^2-y^2}}^{\sqrt{1-x^2-y^2}} x dz \right) dx dy = \iint_{D} 2x \sqrt{1-x^2-y^2} dx dy \\ &= \int_{0}^{2\pi} \int_{0}^{1} 2r \cos\theta \sqrt{1-r^2} \, r dr d\theta \quad (第 1 問 (2) に同じ.) \\ &= \int_{0}^{1} \left(\int_{0}^{2\pi} 2r^2 \sqrt{1-r^2} \cos\theta d\theta \right) dr = \int_{0}^{1} \left[2r^2 \sqrt{1-r^2} \sin\theta \right]_{0}^{2\pi} dr = \int_{0}^{1} 0 dr = 0. \end{split}$$

第3問. 広義積分

pを実数とし $f(x) = x^p \log x$ とする.

(1). p<-1 ならば広義積分 $\int_1^\infty f(x)dx$ は収束することを示せ. $(\mathbf{m}.)$ p<-1 よりある $\epsilon>0$ があって $p+\epsilon<-1$ となる. よって

$$\lim_{x \to +\infty} \frac{f(x)}{x^{p+\epsilon}} = \lim_{x \to +\infty} \frac{x^p \log x}{x^{p+\epsilon}} = \lim_{x \to +\infty} \frac{\log x}{x^{\epsilon}} = 0$$

であるので, $[1,+\infty)$ 上で $\frac{f(x)}{x^{p+\epsilon}}$ は有界である. 2 つまりある C>0 があって, $[1,+\infty)$ 上で $|\frac{f(x)}{x^{p+\epsilon}}| < C$ となる. 以上より, $[1,+\infty)$ 上で $|f(x)| < Cx^{p+\epsilon}$ かつ, 広義積分 $\int_1^\infty Cx^{p+\epsilon} dx$ は $p+\epsilon < -1$ より収束するので, 広義積分 $\int_1^\infty f(x) dx$ も収束する.

(2). $p \ge -1$ ならば広義積分 $\int_1^\infty f(x)dx$ は発散することを示せ.

(解.) $3 \le x$ ならば $1 \le \log x$ であるので、 $[3,+\infty)$ 上で $x^p \le x^p \log x$ である. また広義積分 $\int_3^\infty x^p dx$ は $p \ge -1$ であるので $+\infty$ に発散する.よって広義積分 $\int_3^\infty f(x) dx$ も $+\infty$ に発散する.以上より広義積分 $\int_1^\infty f(x) dx$ も $+\infty$ に発散する.

 $^{^2}$ ここを正確に述べると、 $\lim_{x \to +\infty} rac{f(x)}{x^p + \epsilon} = 0$ より、ある R > 0 があって、 $[R, +\infty)$ 上で $|rac{f(x)}{x^p + \epsilon}| < 1$ となる.一方 [1,R] 上で $rac{f(x)}{x^p + \epsilon}$ は最大値・最小値を持つので(閉区間上の連続関数は最大値を持つ),ある M > 0 があって、[1,R] 上で $|rac{f(x)}{x^p + \epsilon}| < M$ となる.よって, $[1, +\infty)$ 上で $|rac{f(x)}{x^p + \epsilon}| < 1 + M$ となる.よって有界である.